

# 中川村誌 中巻 目次

## 原始・古代編

<b>第一章 中川村の考古学研究の歩み</b>	
第一節 戰前までの研究の歩み	3
第二節 戰後の研究の歩み	3
一 遺物採集と初期の発掘調査	5
二 昭和五〇年代以降の大規模発掘調査	5
三 文化財の保護と調査成果の公開	7
<b>第二章 旧石器時代</b>	
第一節 旧石器時代の自然と文化	9
一 人類の誕生と旧石器時代	9
二 日本の旧石器時代	9
三 旧石器文化の変遷と石器	10
第二節 中川村の旧石器文化	13
<b>第三章 縄文時代</b>	
第一節 縄文時代の年代と時期区分	15
一 縄文時代の年代	15
二 縄文時代の時期区分	16
第二節 縄文時代の自然と文化	18
一 環境の変化と縄文文化	18
二 縄文文化の変遷	21
三 縄文人のくらし	21
四 縄文人の食生活	21
五 食料の獲得と道具	22
六 土器の発明	22
七 土器の移り変わり	26
八 中川村における縄文人のムラ	26
九 中川村における縄文人のムラ	31
第三節 縄文人の住まいとムラ	31
第四節 くらしと土器	31
第五節 縄文人の住まいとムラ	31
第六節 縄文人の祈りと祭り	31
一 生と死の祭り	37
二 繁榮を祈る祭り	37
<b>第四章 弥生時代</b>	
第一節 弥生時代のあらまし	43
第二節 弥生時代の信濃	46
一 弥生文化を受容する信濃（波及期 前期）	46
二 弥生文化の定着と地域色（中期）	46
三 弥生文化の発展（後期）	47

<b>第二節 環境の変化と縄文文化</b>	
一 気候の温暖化と縄文文化の成立	18
二 縄文文化の変遷	21
<b>第三節 縄文人のくらし</b>	
一 縄文人の食生活	21
二 食料の獲得と道具	22
三 土器の発明	22
四 土器の移り変わり	26
五 中川村における縄文人のムラ	31
六 中川村における縄文人のムラ	31
<b>第四節 くらしと土器</b>	
一 縄文人の住まいとムラ	31
二 土器の発明	26
三 土器の移り変わり	26
<b>第五節 縄文人の住まいとムラ</b>	
一 中川村における縄文人のムラ	31
二 中川村における縄文人のムラ	31
<b>第六節 縄文人の祈りと祭り</b>	
一 生と死の祭り	37
二 繁榮を祈る祭り	37
<b>第七節 弥生時代のあらまし</b>	
一 弥生文化を受容する信濃（波及期 前期）	43
二 弥生文化の定着と地域色（中期）	43
三 弥生文化の発展（後期）	47

### 第三節 弥生時代の中川

- 一 主な遺跡と遺物 .....  
 (一) 黎明期の遺跡 (二) 前期から中期の遺跡

49 49

- (三) 後期の遺跡  
 二 中川村の弥生時代の変遷 .....  
 59

- 二 中川村の弥生時代の変遷 .....  
 59

## 第五章 古墳時代

第一節 古墳が造られた時代	61	61
一 古墳時代のあらまし	61	61
(一) 古墳の出現と大和政権の誕生		
(二) 朝鮮半島・中国との交流 (三) 人々の生活		
(四) 法による支配の時代へ		
(五) 古墳時代の時期区分		
二 長野県下の古墳	65	65
(一) 前期の様相 (二) 中期の様相		
(三) 後期の様相 (四) 伊那谷の古墳文化		
第三節 中川村の古墳文化と社会	69	69
一 中川村の古墳	69	69
二 調査された中川村の古墳	70	70
(一) 堅錐1号古墳 (二) 天伯古墳		
(三) 六万部東塚古墳 (四) 塚本古墳		
一 古墳の可能性のある遺跡		
(一) 堅錐1号古墳に隣接する古墳群		
(二) 堅錐1号古墳に隣接する古墳群		
(三) 大草下平の馬具		
(四) 大鹿稻荷社の塚		

### 第四節 古墳時代の社会と生活

- (一) 民衆の暮らし (二) 古墳時代人の食卓

80

## 第六章 奈良・平安時代

第一節 律令支配の時代	83	83
一 律令支配の始まり	83	83
二 科野国伊奈評の成立	83	83
三 信濃國 諏方国と伊那郡	83	83
四 伊那 (伊奈) 郡と郡司	85	85
五 信濃國伊那郡の諸郷	85	85
六 律令農民の負担	86	86
第二節 奈良	88	88
一 中川村における奈良・平安時代の集落	88	88
(一) 中村遺跡 (二) 西ヶ原遺跡		
(三) 箕輪田遺跡		
二 奈良 平安時代のムラの生活	90	90
(一) 発掘調査の結果から復元される集落の様子		
(二) 遺物から考えられる村の生活		
第三節 東山道と堅錐駅	95	95
一 古代東山道	95	95
(一) 五畿七道 (二) 官道の役割と組織		
(三) 駅路と駅家 (四) 東山道		
二 堅錐駅		
(一) 堅錐駅比定地の諸説 (二) 堅錐駅の所在		
三 中川村の東山道	97	97

- (二) 村内のルートの推定  
 (二) 上段 西山山麓ルート

- 一二 外県神社遺跡  
 一三 下り松遺跡  
 一四 下平遺跡  
 一五 下の坊遺跡  
 一六 榎田遺跡  
 一七 下ノ林遺跡  
 一八 下垣外平烟遺跡  
 一九 外垣外遺跡  
 二〇 堂ヶ原遺跡

## 第七章 遺跡と遺物

### 第一節 大草地区

一 飯沼1遺跡	107
二 飯沼2遺跡	107
三 芦ノ田畠遺跡	107
四 一本木遺跡	109
五 前田遺跡	109
六 美里1遺跡	109
七 美里2遺跡	109
八 谷田遺跡	110
(二) 谷田遺跡の調査 (二) 遺構と遺物	110
(三) そのほかの土器と石器 (四) 縄文時代の谷田	109
九 下垣外畠遺跡	109
一〇 荻平遺跡	112
一一 箕輪田遺跡	113

### 第二節 葛島地区

(一) 縄文時代の住居址	124
(二) 縄文時代の住居址	124
(三) 平安時代の住居址	124
(四) 原始 古代の箕輪田の姿	123

一二 外県神社遺跡	116
一三 下り松遺跡	116
一四 下平遺跡	116
一五 下の坊遺跡	117
一六 榎田遺跡	117
一七 下ノ林遺跡	117
一八 下垣外平烟遺跡	118
一九 外垣外遺跡	118
二〇 堂ヶ原遺跡	118
二一 中組遺跡	119
二二 四十垣外遺跡	119
二三 北原遺跡	119
二四 太子原遺跡	119
二五 沖田遺跡	119
二六 大草城遺跡	119
二七 町遺跡	120
二八 坊遺跡	121
二九 下ヶ原遺跡	121
三〇 仲林遺跡	122
三一 中林の平遺跡	122
三二 北林遺跡	122
三三 鹿養遺跡	123
三四 陣馬形山頂遺跡	123
一 小町原遺跡	124
二 池の平遺跡	124

## 三 天伯遺跡

四 葛島城遺跡

五 古垣外遺跡

六 中ノ垣外遺跡

七 高垣外遺跡

八 張原遺跡

九 南原遺跡

一〇 柏原遺跡

一一 八ツ手遺跡

一二 姫宮遺跡

一三 中の平遺跡

一四 渡場遺跡

一五 下島遺跡

一六 百田遺跡

一七 山郷遺跡

一八 大平遺跡

一九 葛島地区採集の遺跡

## 第三節 片桐地区

## (二) 概要 (二) 発掘調査

七 小久保遺跡

八 坊林遺跡

九 中溝遺跡

一〇 溝林遺跡

一一 寺山遺跡

一二 大井沢西遺跡

一三 勘助稻荷神社遺跡

一四 宮ノ脇遺跡

一五 てんばく山遺跡

一六 針ヶ平遺跡

一七 豊信合成立口遺跡

一八 蓮台遺跡

一九 大昌寺北遺跡

二〇 上の原遺跡

二一 高つなぎ遺跡

二二 小和田遺跡

二三 小和田垣外遺跡

二四 下輪遺跡

二五 松ノ越遺跡

二六 堀ノ内遺跡

二七 五十日遺跡

二八 六万部東塚古墳

二九 六万部西塚(小塚)古墳

三〇 天伯古墳

一 莖谷原遺跡	138
(二) 位置 (二) 昭和時代の発掘調査	138
二 梨ノ木遺跡	136
三 横山遺跡	136
四 原田遺跡	135
五 源八遺跡	135
六 茶堂遺跡	135

一 莖谷原遺跡	129
(二) 位置 (二) 昭和時代の発掘調査	129
二 梨ノ木遺跡	128
三 横山遺跡	128
四 原田遺跡	128
五 源八遺跡	128
六 茶堂遺跡	128
七 古垣外遺跡	128
八 中ノ垣外遺跡	128
九 高垣外遺跡	128
一〇 柏原遺跡	127
一一 八ツ手遺跡	127
一二 姫宮遺跡	127
一三 中の平遺跡	127
一四 渡場遺跡	127
一五 下島遺跡	127
一六 百田遺跡	128
一七 山郷遺跡	128
一八 大平遺跡	128
一九 葛島地区採集の遺跡	128
二〇 上の原遺跡	128
二一 高つなぎ遺跡	128
二二 小和田遺跡	128
二三 小和田垣外遺跡	128
二四 下輪遺跡	145
二五 松ノ越遺跡	146
二六 堀ノ内遺跡	146
二七 五十日遺跡	146
二八 六万部東塚古墳	146
二九 六万部西塚(小塚)古墳	146
三〇 天伯古墳	147
三一 中村遺跡	147

三三 堤ヶ原遺跡	150	(二) 中先代の乱	166
三三 西ヶ原遺跡	150	(三) 南北朝対立と大徳王寺城の戦い	166
三四 大林遺跡	151	二 宗良親王と諸族	166
三五 桐山遺跡	151	(二) 宗良親王 (二) 香坂高宗	166
三六 前沢平遺跡	151	(三) 伊那の諸族の動き	166
三七 田島遺跡	152		
三八 清音寺前遺跡	152		
三九 塚本古墳	152	一 信濃の統一と内紛	170
四〇 南田島遺跡	152	(二) 守護小笠原氏による信濃の統一	170
四一 上新田遺跡	153	(二) 大塔合戦	170
	153	二 結城合戦	172
	152	三 小笠原氏の内紛	172
	152	四 『諏訪御符札之古書』にみられる片切氏と	172
	151	大草香坂氏	172
	151		
	150		
<b>第三節 室町時代</b>			
		一 信濃の統一と内紛	170
		(二) 守護小笠原氏による信濃の統一	170
		(二) 大塔合戦	170
		二 結城合戦	172
		三 小笠原氏の内紛	172
		四 『諏訪御符札之古書』にみられる片切氏と	172
		大草香坂氏	172
<b>第四節 戦国時代</b>			
		一 武田氏の侵入と伊那支配	176
		(二) 武田氏の諏訪への侵攻	176
		(二) 武田氏の伊那侵攻	176
		(三) 武田氏と片切郷 (四) 武田氏の伊那支配	176
		二 織田氏の伊那北上	176
		(二) 信玄の死 (二) 長篠の合戦	176
		(三) 織田氏の伊那侵攻	176
		三 天下統一と新しいムラ	174
		(二) 信長の死 (二) 德川氏の伊那侵攻	174
		(三) 豊臣氏の伊那支配	174
<b>第五節 中世の城館跡</b>			
		一 城館跡の概観	186
<b>第二節 南北朝時代</b>			
		一 鎌倉幕府滅亡から南北朝对立へ	164
		(二) 鎌倉幕府の滅亡と建武の新政	164

一 鎌倉幕府滅亡から南北朝对立へ	164	(二) 中先代の乱	166
(二) 鎌倉幕府の滅亡と建武の新政	164	(三) 南北朝対立と大徳王寺城の戦い	166
		二 宗良親王と諸族	166
		(二) 宗良親王 (二) 香坂高宗	166
		(三) 伊那の諸族の動き	166
<b>第二節 南北朝時代</b>			
		一 鎌倉幕府滅亡から南北朝对立へ	164
		(二) 鎌倉幕府の滅亡と建武の新政	164
<b>第五節 中世の城館跡</b>			
		一 城館跡の概観	186
<b>第二節 南北朝時代</b>			
		一 鎌倉幕府滅亡から南北朝对立へ	164
		(二) 鎌倉幕府の滅亡と建武の新政	164

第三章 中世の暮らしと文化	二 竜東地域の城館跡	二 暮らしの道具
第一節 人々の暮らし	(一) 大草城 (二) あら城 (三) 御北	(一) 食生活にかかわる出土品
	(四) 陣馬形山城 (五) 殿小屋 (六) 葛島城	(二) 道具の材質と産地
第二章 中世の村	三 竜西地域の城館跡	
第一節 大草郷	(一) 船山城 (二) 古城	
一 村の成立	二 市と経済	
二 大草郷の村	一 村の開発	
(一) 大草城と城下 (二) 飯沼 (三) 宮地	二 市の開発と経済	
三 大草郷の諸族	(一) 中世の市場 (二) 六日市場	
(一) 香坂氏 大草氏 (二) 香坂氏に属した武士	(三) 大草城下の市場 (四) 市場で扱われた商品	
第二節 片切郷	(五) 銭貨の流通	
一 村の成立	第三節 人々の暮らしと信仰	
二 片切郷の村	一 片切氏と実際寺 瑞應寺	
(一) 中村 (二) 田島 (三) 小和田	(二) 実際寺 (二) 瑞應寺	
三 片切郷の諸族	二 今につながる寺院と神社	
(一) 片切氏 (二) 前澤氏 (三) 松村氏	(一) 寺院の由緒 言い伝え	
(四) 荒井 新井氏 (五) 片切氏に属した武士	(二) 神社の由緒 言い伝え	
	三 神社信仰	
	四 武士の墓、庶民の墓	

## 第一章 村の支配

### 近世編（江戸時代）

第一節 初期の支配のしくみ
一 新たな支配へ
二 竜西地域の村

## 第二節 村の開発と経済

一 村の開発
二 市の開発と経済

## 第三章 中世の暮らしと文化

第一節 人々の暮らし
一 住まい

### 三 竜東地域の村

(一) 家康領としての始まり

(二) 二人の旗本による支配

(三) 旗本近藤氏の支配

(四) 旗本井上氏の支配

#### 第二節 村の支配の変遷

一 竜西地域

二 竜東地域

三 竜西と竜東の支配の連携

248 247 247 247

241

## 第二章 土地と農民

### 第一節 土地を調べる(検地)

一 村内の測量と村高

二 脇坂氏の検地

三 幕府による検地

四 近藤氏の検地

### 第二節 農民の負担(貢租)

一 いろいろな負担

(一) 生産物地代としての年貢

(二) 労働力地代としての諸役

二 作柄の検分

三 年貢の取り立てと上納

四 年貢減免

256 255 254

253 253 252 251 250 249 249

## 第四章 貨幣経済の広がり

### 第一節 稲作 煙作

一 相模垣外「万用日記帳」にみる農家の一年

二 稲作

292 289 289

<p>第一節 村明細帳から江戸時代の村の様子を知る</p>	<p>一 近世の村</p>
	<p>二 享保五年の御料大草村明細帳</p>
	<p>三 宝暦四年の田島村明細帳</p>
<p>第二節 村のしくみと村の自治</p>	<p>一 村の住民</p>
	<p>二 村方三役の成立</p>
	<p>(一) 肝煎の支配 (二) 肝煎から庄屋 名主へ</p>
	<p>(三) 組頭 百姓代の登場 (四) 村方三役の選出</p>
<p>第三節 寺と村人</p>	<p>三 五人組</p>
	<p>(一) 五人組の設置 (二) 五人組の編成</p>
	<p>(三) 五人組帳 (四) 五人組内部の争い</p>
	<p>四 村役人の仕事</p>
	<p>五 村の財政</p>
	<p>六 村の自治</p>
<p>第四節 貨幣経済の広がり</p>	<p>一 寺請制度</p>
	<p>二 寺と村人</p>
<p>第一節 稲作 煙作</p>	<p>一 相模垣外「万用日記帳」にみる農家の一年</p>
	<p>二 稲作</p>
<p>第二節 村明細帳から江戸時代の村の様子を知る</p>	<p>一 近世の村</p>
	<p>二 享保五年の御料大草村明細帳</p>
	<p>三 宝暦四年の田島村明細帳</p>
<p>第三節 村のしくみと村の自治</p>	<p>一 村の住民</p>
	<p>二 村方三役の成立</p>
	<p>(一) 肝煎の支配 (二) 肝煎から庄屋 名主へ</p>
	<p>(三) 組頭 百姓代の登場 (四) 村方三役の選出</p>
<p>第四節 寺と村人</p>	<p>三 五人組</p>
	<p>(一) 五人組の設置 (二) 五人組の編成</p>
	<p>(三) 五人組帳 (四) 五人組内部の争い</p>
	<p>四 村役人の仕事</p>
	<p>五 村の財政</p>
	<p>六 村の自治</p>
<p>第五節 貨幣経済の広がり</p>	<p>一 寺請制度</p>
	<p>二 寺と村人</p>
<p>第一節 稲作 煙作</p>	<p>一 相模垣外「万用日記帳」にみる農家の一年</p>
	<p>二 稲作</p>
<p>第二節 村明細帳から江戸時代の村の様子を知る</p>	<p>一 近世の村</p>
	<p>二 享保五年の御料大草村明細帳</p>
	<p>三 宝暦四年の田島村明細帳</p>
<p>第三節 村のしくみと村の自治</p>	<p>一 村の住民</p>
	<p>二 村方三役の成立</p>
	<p>(一) 肝煎の支配 (二) 肝煎から庄屋 名主へ</p>
	<p>(三) 組頭 百姓代の登場 (四) 村方三役の選出</p>
<p>第四節 寺と村人</p>	<p>三 五人組</p>
	<p>(一) 五人組の設置 (二) 五人組の編成</p>
	<p>(三) 五人組帳 (四) 五人組内部の争い</p>
	<p>四 村役人の仕事</p>
	<p>五 村の財政</p>
	<p>六 村の自治</p>
<p>第五節 貨幣経済の広がり</p>	<p>一 寺請制度</p>
	<p>二 寺と村人</p>

三 新田開発と用水について	295
四 畑作	295
第二節 商品作物と山村の産物	301
一 商品作物	301
二 山村の産物	304
第三節 諸稼ぎ 金融	307
一 諸稼ぎ	307
(二) 稼ぎ人の増加	307
(二) 酒造	307
(三) 水車	307
(四) 生糸	307
(五) 村の職人たち	307
(六) 狩猟	307
(七) 漁撈	307
(八) 奉公	307
(九) 出稼ぎ	307
二 金融	307
(一) 江戸時代の貨幣制度と貨幣の改鑄	307
(二) 無尽	307
(三) 田畠の質入れ 売買	307
(四) 村の消費生活と貨幣経済の浸透	307
334 331 330 330 329 329 329 329 323 323 326 326 323 323	317

## 第五章 道と天竜川

### 第一節 竜東の道と伊那街道

- 一 竜東の諸道
- 二 伊那街道

334 331 330 330 329 329 329 329 323 323 326 326 323 323

### 第四節 中山道への人馬の負担

- 一 伝馬と助郷
- 二 伊那郡の木曾助郷の始まり
- 三 明和二年の日光法会の木曾路大通行と助郷
- 四 樂宮の東下と助郷
- 五 木曾上四宿への代助郷
- 六 寿明姫の木曾路通行と増助郷をめぐる争い

### 天竜川の管流し・通船・渡船

- 一 管流し
- 二 通船
- 三 渡船(渡し船)

360 357 355 355 353 353 348 347 346 345 344 344 343 343 342 342 341 341 340 340 338 338 337 337 336 336 335

## 第六章 開発と災害への取り組み

### 第一節 水の確保と原野の開発

- 一 中馬の起源と通つた道
- 二 宿駅問屋と中馬の対立
- 三 明和期までの紛争
- 四 明和の裁許
- 五 村内の中馬稼ぎの実数

365 363 363

- 六 中馬が運んだ品物
- 七 明和の裁許後の中馬と宿駅
- 八 中馬と通船
- 九 三州馬との争い
- 一〇 中馬村と大草村の争い
- 一一 中馬稼ぎの実際
- 一二 中馬稼ぎ人同士の争い
- 一三 中馬稼ぎ人の集団行動
- 一四 生糸輸出と中馬

337 337 336 336 335

(一) 宝永 安永 天明の開発差し止め  
 (二) 文化年間の差し止め

三 幕末に実現した開発  
 一 記録に残る大水害

第二節 水害の実状と水への備え  
 二 水害対策の実状

一 記録に残る大水害  
 二 水害対策の実状

第三節 理兵衛堤防  
 一 堤防築造のあゆみ

二 築堤費用の記録  
 三 築堤をめぐる葛島との軋轢

第四節 飢饉と救済  
 一 飢饉と農民の苦難  
 二 郷藏設置などの救済策と実態

第五節 疫病の流行と対策  
 第六節 猪鹿などの野獸被害と対策

第七節 火災の実状と対応  
 一 天明の小和田の大火  
 二 嘉永の桑原の火災

第一節 村の休日と祭日  
 一 村の休日  
 二 神楽 獅子舞  
 三 村芝居  
 四 祭りと花火、相撲

## 第八章 学問の広がりと庶民の信仰

第一節 寺子屋と学問の普及  
 一 寺子屋

二 寺子屋の起こりと普及  
 (一) 寺子屋と伊那谷の和算

二 学問の普及と伊那谷の和算  
 (二) 儒学の興隆と普及

(二) 諸学の動向と和算の普及  
 (三) 和算の興隆と飯島保信 保長の活躍

国学の普及と平田学徒らの活動  
 一 国学の興隆と平田学徒の普及

(一) 国学の起こりと発展  
 (二) 平田学の伊那谷への普及

二 中川村地域の平田学徒と勤皇の士の活動  
 (一) 前沢温恭の業績と平田学徒の増加

(二) 尊沢信之輔と遠山鉄之助の活動

第二節 村の休日と祭日  
 一 村の休日  
 二 神楽 獅子舞  
 三 村芝居  
 四 祭りと花火、相撲

第三節 農村の風景  
 一 竜東地域の農村  
 二 竜西地域の農村

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

422 420 420 417 416 414 412 412

## 第七章 村の暮らし

第一節 農民の日常生活  
 一 住生活  
 二 衣類  
 三 食生活

408 405 403 403  
 408 405 403 403  
 408 405 403 403  
 408 405 403 403

第三節 和歌・俳諧のたしなみ	439	439	協力者および写真提供者一覧
和歌の動向と中川村地域の歌人たち			引用・参考文献
(二) 和歌の動向と伊那谷の歌人			執筆分担
(二) 仁科惣藏ら中川村地域の歌人たち			編纂刊行委員会関係者
第四節 神社・寺院と民間信仰	440	440	あとがき
一 神社と民衆	443	443	編集会議関係者
二 寺院と檀家制	444	444	
三 民間信仰と講	445	445	
第九章 近代への歩み			
第一節 開国の影響	449	449	
一 東アジア情勢の変化と日本の開国	449	449	
二 国防の強化と村への影響	450	450	
三 貿易の開始と村の動き	452	452	
四 物価の騰貴と社会の動搖	454	454	
第二節 世直しへの期待	457	457	
一 幕政の推移	457	457	
二 公武合体と和宮の降嫁	458	458	
三 文久の幕政改革と地方への波及	460	460	
四 第一次長州征伐と天狗党の乱	462	462	
五 江戸幕府の滅亡と偽官軍事件	464	464	
六 社会の変化	469	469	
	471	471	
	472	472	
	473	473	